

# 新生・西武文理始動 新校長のもと、未来にたくましく生きる若者を育成



西武学園文理中学・高等学校  
校長 柴田 誠 先生

1980年、数学科教員として入都。都立国分寺高等学校などで20年間教科指導の実践を重ねた後、長期社会体験研修生として労働経済局に派遣。生徒による授業評価制度の導入、都立八王子東高等学校・都立大泉高等学校附属中学校の進学指導力再建、高大接続改革の推進などに尽力。2019年西武学園文理高等学校校長に就任。2020年埼玉県私立中学高等学校協会進学指導研究会会長に就任。2021年度より中学・高校両校の校長を兼務。

「世界を見つめ、人を想い、未来を創る。」西武学園文理中学・高等学校は、グローバル力を「異なる価値観や文化をもった人々と協働しながら、新しい価値を創造する力」と定義し、その習得に取り組みます。今春から中学・高校両校の校長に就任した柴田誠先生は、長年都立高校で教鞭を取るとともに、教育改革を積極的に進めてきた経歴の持ち主。都立高校教員時代の取り組みと西武文理での2年間の実践、そしてこれからの西武文理について、森上教育研究所代表の森上展安氏と話し合っていました。

## 八王子東と大泉、都立高校で成し遂げたこと、未達成だったこと

森上 柴田先生は都立高校で30年以上にわたり、教科指導に携わってこられたそうですね。

柴田 私は1980年に東京都数学科教員として入都し、進学指導特別推進校である都立国分寺高校で13年間教科指導を行いました。その後、管理職候補の立場で長期社会体験研修生として労働局商工計画部に派遣され、生徒による授業評価委員会副委員長として都立大泉高等学校の統括校長に就任しました。この進学指導重点校と中高一貫校での経験が、これからの西武文理に生かせるのではと考えています。

森上 その頃の都立高校は、多くの問題を抱えていましたね。

柴田 当時の都立高校は進学実績、また部活動などの活躍実績でも、私立高校に大きく水をあけられていました。都立志願者は減り、学校内には諦めムードが漂っていたのも事実です。そうした現状を打破すべく、2010年から都立高校の教育改革が始まり、学区制の廃止や進学指導重点校などの施策が行われるようになったのです。私も八王子東高校時代には、都立高校の進学

指導力再建に取り組みしました。八王子東は前期4校に指定されており、ここで実践した進学指導ノウハウを日比谷高校などに伝えることが求められていたのです。管理職の立場で進学指導力再建に携わって、教師がしっかりと生徒の面を見えさせ、必ず実績が上がっていくことを実感しました。ちなみに今は広く言われるようになった「拡大大学進学」という言葉は、八王子東高校が言い始めたんです。

柴田 都立中高一貫校は、都民のニーズから生まれた学校で、私が都立大泉高校に就任したのは、中高一貫の完成時期、旧制度下の生徒が高3にいた時でした。

森上 中高一貫校は私立という先行モデルが参考になったかと思うます。

柴田 それでも本当に試行錯誤でした。私立の場合には教員の異動がありませんから、40年以上にわたり指導に携わるような教員もおります。しかし都立校の教員は長くて5〜6年で異動しますから、6年間、一人の教員が生徒の成長を見守ることは限らないわけです。小学校卒業という入り口から高校卒業の出口まで責任を持って生徒を育てられるのか。紆余曲折はありましたが、進学実績などで少しずつ効果が見えるようになり、中高一貫校制度は正解だったと思っています。

森上 都立高校時代を振り返られて、どんな成果を得たとお考えですか。

柴田 進学指導重点校や中高一貫校に管理職の立場で携わって感じたのは、一貫した指導方針で

学校全体を引っ張っていくことの重要性です。進学指導重点校は、文部科学省の施策が教育体制に大きく影響するため、柔軟な判断が必要になります。また中高一貫校では、6年間という長いスパンで生徒を育てるノウハウがない状態からスタートでした。管理職のぶれない姿勢と、教員全員の目的意識の共有、それが徹底していなければ、学校の改革は進みません。一方で、生徒ときちんと向き合い指導すれば、時間はかかるけれども必ず成果が表れることも経験を通して実感したことです。

森上 逆に、やり残したことや心残りはありませんか。

柴田 都立では物事を決めるまでに時間がかかり、思い切った改革が進められなかったという反省があります。それもあって、西武文理では積極的に改革を進めていこうと考えています。

森上 今回の都立の復権は、柴田先生をはじめ多くの先生方のご健闘があったからだと改めて感じます。都立が元気なことで、中学・高校全体がもっと活気づくのが楽しみです。

## これからの時代を生きる若者を育てるために 変化を恐れず改革を推進

森上 2019年に西武文理高校の校長に着任されましたが、私立高校はいかがですか。

柴田 埼玉県、私立での勤務と初めての経験ばかりで、カルチャーショックが大きかったです。

森上 「どんなにA1が進化した時代でも、協働する力や新しいものを生み出す力は必要とされるはず。しなやかに、たくましく生きる若者を育てていきます。卒業生の今後を期待し、温かく見守っていただければ幸いです。」

森上 「これからの時代、子どもたちにどんな力が必要なのか」は、文科省の審議会でもさまざま意見が出ていますが、柴田先生の言われる「たくましく」「しなやかに」は、特に重要な要素だと思います。こうした力を身につけた西武文理生の今後を期待しています。

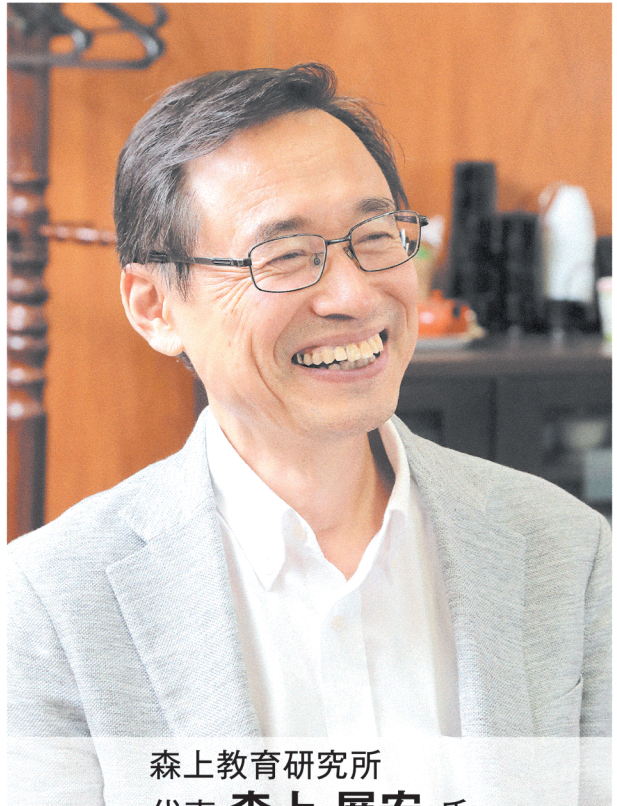
## 生徒・保護者に「選ばれた学校」になるために

森上 西武文理は、開校以来グローバル教育、ホスピタリティ教育を大切にされてきました。そうした良さを大事にしながら、柴田先生がお考えになる「今後の西武文理像」をお聞かせください。

柴田 コロナ禍の影響はありますが、「国内活動でどれだけグローバル化が図れるのか」に挑戦しようと考えています。埼玉県で初めてGLOBAL COMPETENCE PROGRAM (GCP)を導入したのもその一つです。また、大学とのネットワーク強化、企業との連携強化の取り組みも進めます。大学の教員による講演や出張授業、企業とのコラボなどを通して、生徒に、学ぶこと、新しいものを生み出すことの楽しさ、奥深さを実感してもらいたいと思います。

西武文理がこれから選ばれる学校になるためには、成績や進学実績を伸ばすことが必要ですが、私はトップのレベルを引き上げるだけでいいので、2番手、3番手を育てなければと考えています。すべての生徒が「西武文理で学んで良かった」と思えるようなカリキュラムや教育環境を整えることがこれからの私の使命です。

森上 頼もしいですね。これから改革に邁進してください。最後に、中受験のお子様を持つ保護者の方々にメッセージをお願いします。



森上教育研究所  
代表 森上展安氏

早稲田大学法学部卒業後、進学塾塾長などを経て、1988年に私立中・高や進学塾を対象とするコンサルタント「森上教育研究所」を設立。現在は同研究所の代表を務める一方、受験や中高一貫教育についての豊富な情報と経験を活かし、評論・分析の分野でも活躍。ほぼ毎週、中学受験の保護者を対象に、著名講師陣による「わが子が伸びる親の“技”」(oya-skill.com)動画を制作販売している。

森上 高校からの入学生(高入生)がはつきりわかるように、成績や部活動など、一人ひとりのデータを一度にまとめました。パーソナルデータがあいまいでは、指導の際に甘んじているから。また、学年ごとと同じ時間帯に別々な場所で行っていた成績会議を大会議室で合同で開催させ、「すべての教員がすべての生徒の情報を把握できる」体制を作りました。

HJR授業のなかで、中入生と高入生と一緒に活動させるようにしたことも大きな変化です。今までは西武文理では、中3で高1までの勉強を終わらせる先取り教育を進めており、中入生と高入生は別のクラスでしたが、中高6年間を意識したカリキュラムの見直しを行い、学力がきちんと定着し、学ぶ楽しさを感じられるようにしたいと考えました。進度が異なる英語と数学では習熟度別授業を行っています。新しい出会いのなかで、それぞれが優れている点を確認し、切磋琢磨することで新たな価値観の発見・創造につながればと思っています。



GLOBAL COMPETENCE PROGRAM(GCP)の授業の様子

世界を見つめ、人を想い、未来を創る。  
西武学園文理中学・高等学校

学校説明会(予約制)  
第4回 9/18(土) 9:30~11:30 第6回 11/ 3(水・祝) 9:30~11:30  
第5回 10/16(土) 9:30~11:30 第7回 12/11(土) 9:30~11:30  
※各回開始30分前から受付を開始します。 ※詳細はホームページをご覧ください。 ※1家族2名様まで(受験生含め)のご参加とさせていただきます。

〒350-1336 埼玉県狭山市柏原新田311-1 TEL:04-2954-4080  
https://www.bunri-s.ed.jp/

